



## 朝の時間の子供の姿

毎日暑い日が続く、熊本市でも猛暑日が過去最多となったという報道は、先週の話です。朝から虫の鳴き声も変わってきて、若干秋の訪れを感じ始めていますが、朝からまだまだ暑く、交通指導に立っていると、汗ばんできます。そんな中でも毎週火曜日は、朝からボランティアの呼び掛けがあり、有難いことに1年生から6年生までの子供たちが、多数参加してくれています。今朝は、自主的なボランティアが行われていて、その様子をみると、運動場や正門横などの草取りや落ち葉掃き、さらにはあいさつ運動など多様な活動の様子が見て取れます。夏休みに欠かさず、花の水やりをしてくれた緑化委員長の寺床さんは「たくさん花が咲いて欲しいという思いで水やりしました。『👓 帯西イエロー』の心が育ちました。学校のために役立ててよかったです。」と話をしてくれました。暑い日は続きますが、子供たちの行動によって、朝から爽やかな気持ちになりました。



## 学校百景⑰ 校長室の「パメラちゃん」人形

昨日も少し書きましたが、校長室には「パメラちゃん」という人形が飾ってあります。紹介札には「新・青い目の人形『パメラちゃん』ギュリック3世寄贈1997.7.2」とあります。学校にも詳しい資料がなかったので調べてみました。

「青い眼をしたお人形は アメリカ生まれの セルロイド 日本の港に着いた時 いっぱい涙を浮かべてた わたしは言葉がわからない 迷子になったら なんとしよう やさしい日本の嬢ちゃんよ 仲よく遊んでやっどくれ 仲よく遊んでやっどくれ」

これは野口雨情が1921年に作ったわらべ歌で当時大流行したそうです。その後、アメリカから日本にたくさんの青い目の人形が寄贈されました。それは、日本に住んでいた宣教師であるアメリカ人のギュリック博士の尽力によるものでした。博士は、1888年から20年間日本に住み、アメリカ人260万人の協力を得て、12,739体もの青い目の人形寄贈のために奔走されました。これは、日米の友好の証となり、日本からも日本人形がアメリカに贈られました。青い目の人形には一体一体名前が付けられていましたが、太平洋戦争の勃発により、青い目の人形は、竹やりで突かれたり、焼き払われたり、捨てられたりしました。時が流れ、ギュリック博士の孫にあたるギュリック3世は、博士の思いを受け継ぎ、現在も日本全国に「新・青い目の人形」を贈る活動を続けています。そして、帯西に「青い目の人形」交流70周年を記念して、「パメラちゃん」がやって来たのです。

